

real Zambia

ザンビアでの5ヶ月を

アフリカ大陸、ザンビアの大地をふんで早や5ヶ月。
“青年海外協力隊”なんてりっぱな名前をしょってきたけど、
生活するのに精一杯！ザンビアの人達に助けられてばかりの毎日でした。

英語の勉強、文化のちがう国でくらすには・・・など、4月からは訓練の日々が続いていたので、
ザンビアにとう着した時は「**やっとザンビアに来た!**」と、これからの生活が楽しみでしかたありませんでした。自分はどこでも楽しく、だれとでも仲良く生きていけると思いこんでいたのですね。

ザンビアに着いてからも、1ヶ月は英語、ニャンジャ語（現地語）の勉強、ザンビアの歴史や社会、文化についての勉強がありました。今までの訓練と違い、英語がわからなくては何も分からない・・・ももっとちゃんと英語を勉強しておけばよかったと後かいしたのを覚えています。もちろん、今でも勉強しなくてはと日々、痛感しています。その後、ザンビアでの一人暮らしが始まりました。一人暮らしにはなれているつもりでしたが、日本とは大違い！！
まず、玄関のドアの外には動物園にあるようなおりが付いていて、そこのかぎを閉めます。次に玄関のかぎ。夜ねる時は、ねる部屋の外のおりのかぎを二つ閉め、ドアのかぎを閉めて寝ます。

これがどういうことかわかりますか？どろぼうが多く、**自分の身は自分で守らなければいけない**のです。日本のようにうらみやいじめで人を殺す人はいませんが、お金やお金になるものをとるために銃で人を殺してしまう人がいるのです。それほど、貧富の差（お金を持っている人と持っていない人の差）が大きいということなのです。

家には近所の子がよく遊びに来ていました。とくに用事はないけれども、「かおり～」とよく呼ばれます。この写真は庭のポポを取った時のもの。**3m近くある木**にするすると

登っていき、ポポを落としていました。日本だったら、「あぶないからそんな高い所に登ったらだめよ！」なんておうちの人におこられてしまうかな？落としたポポを私が切り、みんなで食べました。甘くておいしかったです。



本当はもっと早くザンビアでの生活をみなさんに伝えようと思っていました。でも、ここでは書ききれないくらい毎日の生活が大変で、自分が毎日生きていくのに精一杯でした。ザンビアなんて大きらい！と思ったりしましたが、やっと心にゆとりを持って生活できるようになってきました。



これからはどんどん“real Zambia”（私の目で見た、本当のザンビア）を伝えていくつもりです。楽しみにしててください。

ホームページ <http://www011.upp.so-net.ne.jp/HappyLife-386/>

E-mail kaori@zamtel.zm

フラットしてみました！